

## 基本事業：おくはりま持続可能な地域づくり相談室

### 1 事業が目指すところ

中山間地域である奥播磨エリアにおいて、地域づくりの課題解決のための相談室を開設、人材育成や先進事例情報提供などを行い、地域全体をボトムアップし、持続可能な地域づくりをめざす。

昨年度に引き続き、2021年度は奥播磨エリアのNPOネットワークづくりのほか、共通する地域課題を抱える中山間地域で活動している団体との広域ネットワークづくりを強化、①効果的に交流を深めながら、②複層的な関係性を創り出し、共存できるよう中山間の地域社会の持続可能性を探っていく。

### 2 活動内容

- (1) 相談面談・電話・E-mailにて以下の相談・指導
- (2) 情報提供・ネットワーク
  - ・地域情報便 おくはりまNEXT2021年度 3月末発行予定
  - ・NPO法人や地域づくり任意団体間のネットワークづくり
  - ・中山間エリアなどとの広域ネットワークづくりの強化
- (3) 人材育成
  - フィールドワークの実践
  - 地域資源を活用したワークショップの指導
- (4) 書類作成指導
  - 申請書や報告書・企画書・予算書・広報物の作成アドバイス
- (5) その他(問い合わせに応じて対応)



広域ネットワークづくりの実践(11月13日)



若い世代へのフィールドワークの実践(11月21日)



団体間ネットワークづくりの実践(11月20日)



地域資源を活用したワークショップの指導(12月10日)

### 3 成果や課題点

#### (1) 成果

広域ネットワークづくりに取組んできたが、全国組織を持つNPOなどからの問合せや紹介によって、関西圏以外の地域で活動する団体や首都圏の大学へのプレゼンや資料提供などを実施した。今後さらに広域ネットワークづくりを推進していくパワーとなっている。

#### (2) 課題点

不安定な社会情勢が続く中、奥播磨エリアで活動する団体の活動が停滞したり、解散した団体もあつたりで、ここ2年間、相談数数が減っている。広域ネットワークづくりにおいても、予定していた事業が延期または中止となっている。

### 4 今後の展望、成果の活用

今後も地域特性に応じた中間支援活動を継続し、ネットワークを活用して持続可能な中山間地域づくりをめざす。

## 企画立案事業：奥はりま非・密チャンネルの運営

### 1 事業が目指すところ

奥播磨エリアは、播磨臨海部とは距離が近く、山々や河川、田園などの自然に溢れた中山間地域である。密にならずに日常を過ごすことが可能な地域であり、2地域居住や都市農村交流が盛んである。とはいえ、県内では、但馬や丹波、淡路のような知名度はなく、馴染みの薄い地域でもある。そこで、奥播磨エリアで暮らす若者や移住者、地域の活性化に取り組んでいる人たちをYouTubeの専用チャンネルで紹介することにより当地域の魅力を発信し、関係人口の増加に寄与し、地域の活性化を図る。

### 2 活動内容

YouTubeチャンネル運営の打合せ・動画撮影	9月～3月
動画編集・チャンネルでの配信	2月～3月
奥はりま非・密チャンネルPR冊子(200部)	3月末発行予定



若者移住者への取材動画撮影((10月9日)



播磨地域NPO研修受け入れ動画撮影((11月19日)

### 3 成果や課題点

#### (1) 成果

YouTubeにて、3～4本の動画を配信予定

#### (2) 課題点

事業採択の可否が出るまで動きがとれず、事業開始時期が遅れた。

提携している関係機関の状況が変わり、当初計画していた動画作成の内容を変更せざるをえなかった。

### 4 今後の展望、成果の活用

社会情勢が好転し取材活動が活発になったら動画配信数を増やし、YouTube専用チャンネルの登録者数を増やしていきたい。継続的に当地域の魅力を発信し、関係人口を増やし、地域貢献につなげる。

## 1 事業が目指すところ

3年計画で地域資源のコラボレーションによる付加価値を高めるアイテムづくりを実践し、事業提案する(2019年度～2021年度)

- 1年目：地域ブランディングの先進事例の調査
- 2年目：中山間地域での事例を研究 → 3つの視点に絞り込み
- 3年目：①環境保全×食(遊休農地を活用して栽培したブルーベリー)  
②街道文化×食(旧因幡街道筋に伝わる郷土食の鯖食)  
③地域を訪ね歩くフットパス×食(名水で栽培された葉ワサビ)  
◎特産品づくりを実践し、地域ブランドのアイテムとして提案!



会員によりワークショップの様子

## 2 活動内容

### (1)提案のための試作ワークショップ開催

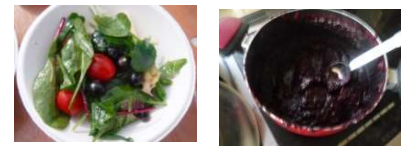
対象：会員、賛助会員、ボランティアスタッフ(参加人数30人見込)

#### ①環境保全×食：遊休農地で栽培した「ブルーベリー」を活用

- 1月29日 宍粟市「安賀夢庵」にて実施 3種類
- 2月28日 宍粟市「安賀夢庵」にて実施予定 2種類

#### ②街道文化×食 江戸時代から旧因幡街道筋に伝わる「鯖食」を活用

- 10月2日 宍粟市NPO事務所にて実施 1種類
- 10月24日 宍粟市「安賀夢庵」にて実施 2種類
- 11月14日 宍粟市「安賀夢庵」にて実施 2種類
- 1月29日 宍粟市「安賀夢庵」にて実施 3種類



鯖やblueberryの試作品の数々

### (2)ブランディングワークショップ開催

①と②は当初、加工施設での1～2月に計画していたが、社会情勢により中止し、新たに果樹園オーナー向けのワークショップとして3月20日に開催を計画

対象：会員、賛助会員、ボランティアスタッフ、果樹園オーナー(参加人数50人見込)

#### ③はフットパスイベントとして3月27日に開催を計画

対象：会員、賛助会員(参加人数20人見込)

地元ガイドの案内で地域を訪ね「名水で栽培した葉わさび」の圃場見学、加工体験(地元公民館)

※イベントの開催日程は、社会情勢により規模や時期を変更または中止の場合あり

## 3 成果や課題点

### (1)成果

地域ブランド推進スタッフが熱心に意見交換を行い、協力して試作メニューワークショップに取り組む。1月末時点で11種類の試作ワークショップを実施。アンケートでは率直な意見が多く寄せられた。アンケートを参考に食材選びや組合せ、調味料など、アイテムの改良につながった。

### (2)課題点

社会情勢を考慮し、会員やボランティアスタッフなど関係者を中心とした事業推進となったため、ワークショップやイベントでの一般参加者募集が行えず、より多くの意見を集めることが出来なかった。

## 4 今後の展望、成果の活用

地域資源のコラボレーションで得られた成果をまとめる。道の駅レストランや生産加工グループに新たな地域ブランドのアイテムとして事業提案する。イベントでの活用を図る。

## 1 事業が目指すところ

高齢の為耕作できなくなった田畑で、消費地域の障がい者・障がい者家族支援者・一般市民が共に連携し、夏野菜・黒枝豆の苗付け及び収穫を一緒に行う。

茅葺古民家の継続修繕を行い、生産地域の「つどいの場」、消費地域の癒しの場」とし双方の交流を深めることを目指す。



10/15 黒枝豆収穫時の集合写真

## 2 活動内容

- ・夏野菜の種まきから収穫（4/18～7/4 7回）
- ・黒枝豆の種まき・苗付け・盛り土・草むしり（6/6～9/19 6回）
- ・黒枝豆の収穫（10/15、17、19、22、24、31 6回）
- ・茅葺古民家に落語家 露の団六氏を招き  
「ふれあい広場」を実施 12/12  
概ね 60 名参加
- ・就労支援「ぽこあぽこ」野菜提供  
毎週月曜日（4/5～3/18 最終予定）
- ・木の芽家族会野菜提供  
毎月第二日曜日（4/11～3/12 最終予定）



10/24 黒枝豆収穫体験の様子



10/31 黒枝豆収穫時の様子・集合写真



ぽこあぽこ・家族会の野菜提供の様子



## 3 成果や課題点

それぞれに居場所をつくり、役割と出番を作ることができたのが、とても良かった。

大自然の中の非日常を経験することで、社会参加への興味、農村部への興味が広がったことが良かったが、農作物の成長ごとに足を運んでほしかったが意図するほどの動きにはならなかった。広報の仕方に工夫が必要であることが課題となった。



12/12 ふれあい広場の様子



12/12 30年ぶりに対面した地域住民

## 4 今後の展望、成果の活用

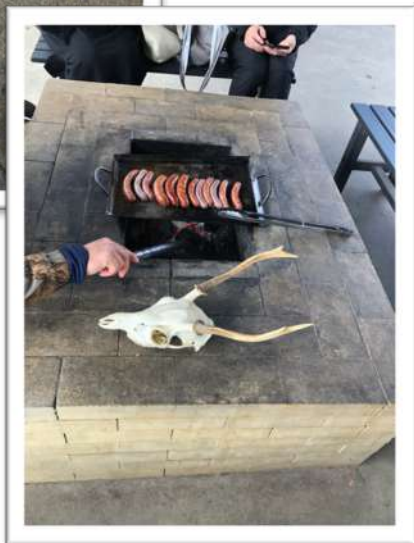
- ・種蒔きから収穫までの体験を有料化
- ・茅葺古民家利用を「つどいの場」「癒しの場」としてリピーターを増やす
- ・ブルーベリー事業化



薪でご飯の炊き方を教えてもらっている様子

# 事業報告

## ジビエ料理普及を目的としたジビエ料理試食会の開催 (令和2年11月23日)



令和2年11月23日に宝塚市のチボリゴルフセンター内の RIVER CAFÉ で西宮のジビエ肉バルイノバーの河野シェフを招いて、ジビエ料理の試食会を行いました。17名の方にお集まり頂き、猪肉と鹿肉の赤ワイン煮込みと鹿肉ソーセージをお召し上がり頂きました。臭みも全くなく、美味しいと好評を頂きました。また、河野シェフからは鳥獣被害の深刻さ、猟師の仕事、命を頂くという食育について講義もして頂きました。

なお、令和4年2月に鹿肉料理のレシピ本の発行も予定しております。

## 1. 事業の目的

「桜は人で咲く」といわれているように人と深い関わりのある樹木です。しかし街を歩いていると、手入れ不足の可愛そうな桜をたくさん目にすることがあります。日本人に人気のある桜ですが、人の手によって植えられた桜は普段から目を配りながら手入れをすることが大切です。私たちは、NPO法人兵庫県樹木医会の先生のご指導のもとで、播磨地域の皆さんと連携しながら「植えて終わり」ではなく「植えて育てる」を合言葉にして、小・中・高校生にもこの活動への参加を呼びかけ、桜の成長と共に播磨の発展に寄与することが出来る人材育てます。

右の写真は、姫路市手柄山中央公園で見つかった新種のフタエカスミザクラで、手柄山にちなんで「手柄ザクラ」として登録されました。



## 2. 活動の内容

### 1. 姫路城の桜の現状の調査と、その再生の取り組み

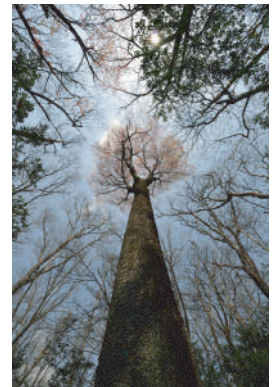
国宝であり、世界遺産にも登録されている姫路城は「桜の名所100選」にも選ばれています。しかし近年ではその桜が日ごとに樹勢の衰退を見せているのが現状です。私たちはこの一年、樹木医の先生の協力を得ながら病状の調査をしました。この活動を継続するために、手柄山中央公園一帯で「桜の育成の講習会」を定期的に開催し、桜や花を会する市民の皆さんや諸団体に呼びかけて姫路城の桜の再生に繋がる活動に進めていきます。



### 2. 播磨地域のヤマザクラの現状調査と、その再生の取り組み

ヤマザクラは個体変異が起こりやすい特徴を持っているので、同じ場所に自生していても花の色や開花時期が異なります。樹高は10メートルから25メートルほどまでに育ち、全体的に見れば開花期が長くなりますから桜の中でも花見を楽しみやすい品種に該当します。またヤマザクラは寿命の長い桜としても知られ、岡山県の尾所には樹齢500年を超える個体も存在します。このヤマザクラも周囲の樹木のお陰で枝を横に伸ばすことが出来ず、太陽の光りを求めて上へ上へと伸びているのが現状です。

私たちは山主さんの許可を得て、周囲の樹を伐採して枝を横に伸ばし、「植えなくて、育てるヤマザクラ」の活動に取り組みます。そしてヤマザクラを伐採せずに残していくようにして、将来にはヤマザクラも見事に咲き誇る播磨の山里になるように努めます。



### 3. 「第2回 はりま桜シンポジウム」の開催

昨年と一昨年に、このシンポジウムの開催を新型コロナ感染予防のために中止しました。そして今年度は、神崎郡神河町の2地区でソメイヨシノの樹勢回復事業を自治体や地域の皆さんと一緒に、NPO法人 兵庫県樹木医会の先生の指導で行いました。この活動を次年度以降も進めることで、その活動が神河町全体に広がっていく事を願っています。この「第2回 はりま桜シンポジウム」を、3月26日(土)13時~16時まで、神河町役場内にある中央公民館（グリンデルホール）で、NPO法人 兵庫県樹木医会の河合 浩彦理事長の「枝と根っこをバツサリ・・・！ 樹木医が語る桜の育て方」の基調講演や神河町での活動発表として「ソメイヨシノの樹勢回復に関わって感じたこと」を中心にして開催する予定です。



## 3. 成果や課題点

この活動を通じて「明石公園桜守の会」のメンバーとの交流に繋がりを、連携体制を構築する事が出来ました。この連携を活かして姫路市手柄山中央公園でも桜の育成技術の習得のための講習会を、新型コロナ感染予防の万全の体制で開催したいと思っています。

## 4. 今後の展望、成果の活用

シンポジウムの開催やホームページを有効に活用して私たちの活動を広く告知し、まずは姫路城の桜の樹勢回復計画の資料をまとめ、姫路市・兵庫県文化財課を通じて文化庁に計画を提出して、この計画を調整したい。

## 【中間支援活動助成事業(基本事業)】 法人名:NPO法人プラッツ

### 【NPO 講座その 1】『今さら聞けない！オンライン会議』

開催日:2020年9月29日(水)13:30~15:30

内 容: コロナ禍、需要の高まったオンラインの使用についての解説。

講 師:認定 NPO 法人宝塚 NPO センター 馬越 康弘 氏

オンライン会議の主流となるツールである、「Zoom」を使用し、その基礎となる部分を実際に使いながら学ぶ講座。



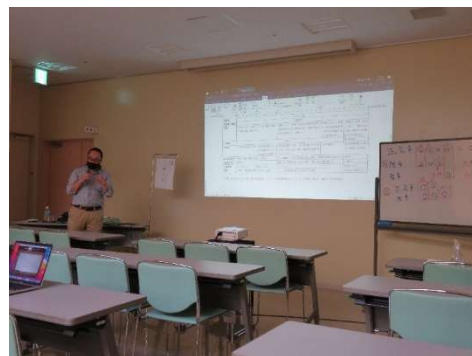
### 【NPO 講座その 2】『今さら聞けない！NPO 法人・一般社団法人って何？』

開催日:2021年10月21日(木)13:30~15:30

内 容: NPO 法人と一般社団法人を比較し、その内容を学ぶ。

講 師:NPO 法人しゃらく インキュベート事業執行役員 小嶋 新 氏

最近よく耳にする、NPO 法人と一般社団法人を比較しながら、そのメリット・デメリット、設立方法などを学ぶ講座。



### 【NPO その 3】『今さら聞けない！会計ってどんなもの？』

開催日:2021年12月9日(木)13:30~15:30

内 容:会計についての入門編。

講 師:公認会計士・税理士 作花 良祐 氏

会計のミニマムな部分である家計と企業会計が同じようなものであるという身近で、分かりやすい解説により、幅広い層に学んでもらえる講座。



### 『但馬コミュニティ協創会議』～未来思考で考える、アフターコロナの地域づくり～

開催日:2022年1月15日(土)13:30~16:00

内 容: 地域づくりについてそれぞれの活動や想いを共有する。

ファシリテーター:NPO 法人シミズシーズ 小笹 雄一郎 氏

参加者は、NPO 法人スタッフ、民間企業社員、豊岡市民・養父市民など幅広いジャンルから参加。  
「共創」「東播磨未来 100 人会議」について講義。  
その後、ペアトーク、全体共有で参加者同士の対話。



# 「森と川と海と人が連動する地域再生プランの創出」

2021年度の活動

NPO法人 但馬自然史研究所

## 2021年度4つの目標とその成果

①生き物調査の継続・生物多様性リストを充実させる

→クモ類、コケ類、甲殻類の調査リスト



→宇日の自然とくらし (その3)

②荒廃した湿地に自然回復ビオトープをつくり、モニタリング調査をすすめる

→石休 (いしやすみ) ビオトープ誕生



5月6月7月8月11月に活動1月に待望のカエル産卵

③字名マップと看板づくり・オリエンテーリングの実施

→磯の生き物観察会 (平床、川尻の生き物探検)

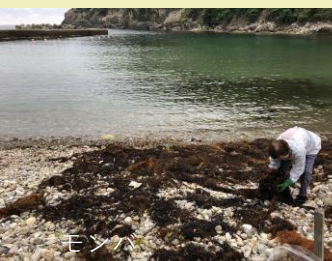


7月 ヒトデと友達になろう



④暮らしと食べ物カレンダーをつくる

→古老に学ぶ暮らしと磯のカレンダー



→宇日の自然とくらし (その3)

## 反省と課題・展望 (新たな挑戦へ)

コロナ禍の影響で計画が予定通りに遂行できなかった

→①フットワークの良い**小人数単位**の活動に切り替える

②**ライブ中継**などを取り入れ、**情報発信のスタイルを変える**

③**宇日フレンズ** (ファンクラブ) を立ち上げて、**こころのふるさと**に位置付ける試み。面白イベント (コケ見ウオーキング・お地蔵さん音楽会・森のジビエクッキング、おばあちゃんの料理教室など)

団体名：特定非営利活動法人D・B・Cグループ

2021年度 地域づくり活動NPO法人事業助成連携重視事業

事業名：＜鹿ジビエ・地元食材で町活性化プロジェクト＞

「ノーベル賞の晚餐を但馬小代で！」

ジビエとしての鹿の有効利用事業。  
地元猟友会・加工施設・レストラン  
加工業者の連携ネットワークを  
構築し但馬牛と同じ山野草で育った  
鹿ジビエとして展開。  
自立継続活動を目指し、  
本年度、地域団体の本格的な  
事業参加を確立できたと考えます。

- ※左下 連携飲食店等に配布した  
ジビエ料理レシピ集
- ※右上 ジビエ普及啓発イベント  
「ジビエ・フェスタ2021」チラシ
- ※右下 フェスタに集まった親子

町活性化連携プロジェクト

ジビエ・フェスタ  
2021

兵庫県但馬香美町  
鹿ジビエ&地元食材  
美味しいフェスタ開催

日本の美味しいジビエ発見！  
但馬牛と同じ高原で育った鹿ジビエと地元在来野菜とのコラボで地域創生

日時：2021年11月7日(日) 10:00~16:00

場所：香美町小代古代体験の森 ●参加無料

申込予約・お問合せ 0796-80-1521  
D・B・Cジビエフェスタ実行役員会

香美町  
広井地区  
R482

ノーベル賞の晚餐を  
但馬・香美町小代で！

このプロジェクトはひょうごボランティア基金地域づくり活動助成金を受け行っています。



町活性化連携プロジェクト

鹿ジビエ  
&  
地元食材

ノーベル賞の晚餐を但馬小代で！  
「ジビエ・フェスタ2021」

レシピ集

地域が旨い！

製作の鹿ジビエ・地元食材で町活性化プロジェクト実行役員会(NPO法人D・B・Cグループ)



団体名：特定非営利活動法人D・B・Cグループ

2021年度 地域づくり活動NPO法人事業助成先導的・先駆的事业

事業名：＜古民家リノベによるハブセンターづくりと  
「支え愛」応援活性化事業＞

近年地方における著しい少子高齢による孤立化。

また、拍車をかけるような新型コロナウイルス蔓延によりソーシャルディスタンスが呼びかけられ人と人の距離が離れて行っている中で地域の共助体制への取り組み事業「支え愛」を実施いたしました。

また、当事業の拠点(ハブセンター)を地域の共助により整え、出向「支え愛」事業と並びセンターでの催事も企画、憩いの場としての役割もはたし、支え合いの場としても継続運営を目指します。

※左上 登録いただいた、香美町在住高齢者の方々。

※右上 今回、「支え愛」ヘルパー登録していただいた都市部の学生たち。

※下 「支え愛」の拠点(ハブセンター)、では本年は2つの催事を開催。

・但馬のザゼンソウ写真展 ・但馬苔盆景展



但馬、城下町村岡の  
古民家をセンターとし  
共助にし整備を申し込  
皆さんの集いの場として  
活用します。

## [ 先導的・先駆的事業 ] 農村課題解決と地域活性化に貢献する関係人口創出・拡大事業

### ○本事業の目的・実施の経緯

本団体は、人口減少・高齢化による担い手不足に悩む農村を支援するため、地域内外の多様な人材とともに地域の獣害対策をすることで参加者には愛着が芽生え、地域が活性化するという「**獣がい対策**」を推進するべく様々な活動を行ってきた。

本事業ではこれまで「黒豆オーナー制度」という活動を行っていた集落内で新たに発生した、山際の獣害も酷い**耕作放棄地**を活用することとなったため、獣害柵の設置や農作業資材・作業員が必要となった。

そこで都市部にすむ農作業や土に触れたいという思いのある人を募集し（**関係人口**）、作業は地域外と地域内の人・そして本団体スタッフで行った。本事業の助成金の使途は獣害柵や農作業資材の購入、運営に当たる人件費である。

### ○活動内容

耕作放棄地だった場所にシカ・イノシシ・サル用電気柵の設置・黒枝豆や野菜（トウモロコシ・スイカ・さつまいも等）を栽培する「**黒豆ボランティア**」を月に2回程度（農閑期は不定期）、継続して募集・実施した。



### ○成果

この1年間で340人（延べ人数）ものひとと共に耕作放棄地の活用に取り組むことができた。

特に**サル用・アライグマ用の柵設置をみんなで行ったうえで、しっかりと作物を収穫することができ**、現地で実際に食べるということもでき、参加者からも好評を得た。

またボランティアの企画を実行したことで、参加者とのつながりが生まれ運営側も**開催のノウハウ**を得ることが出来た。

### ○課題

参加者が比較的固定化され、新規の参加者が来ても継続に繋がらない、ということ、また生産した農産物が余ってしまうことがあった。

またここに限らず市内各地に耕作困難になっている農地があり、活動を広げる余地がある。

↓今年度のボランティア参加者数（述べ人数、イベント除く）

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	計
大人	15	15	21	52	39	9	3	19	22	9	18	222
子供	11	11	9	13	12	6	3	12	8	3	5	93
地域	3	1	3	5	1	1	1	2	2	2	4	25
計	29	27	33	70	52	16	7	33	32	14	27	340

### ○今後の展開や成果の活用

今回活用することが出来た畑では、今後も今年度購入した資材を活用しながら黒枝豆やスイカ等参加者も嬉しい作物を栽培するなど、来年度以降も作業を継続して行っていく。

さらに来年度は、今年度培ったボランティアの方とのつながりや募集のノウハウを生かして、丹波篠山市内での別地域（2地域程度を予定）でも地域の要望に沿った内容で、農作業や電気柵設置などの作業ボランティアを募集するイベントの実施をする予定である。